

研究室紹介

鹿児島県農業開発総合センター 生産環境部

鹿児島県農業開発総合センターは、「農業技術と担い手育成の拠点」として平成18年4月に農業大学校と農業試験場、果樹試験場、茶業試験場、畜産試験場を統合・開設されました。

生産環境部は、病理昆虫研究室、土壌環境研究室、病害虫防除室で構成され、部長は病害虫防除所長兼任で病害虫防除室員が病害虫防除所職員を兼ねています。病理昆虫研究室は、病害虫の生態と防除（管理）技術開発を担い、土壌環境研究室は、県内土壌の状態把握と土壌の適正管理技術開発を、病害虫防除室は、主要病害虫の発生状況を面的に捉えそれに対応する技術的情報発信（時に特殊害虫防除対策）に取り組んでいます。

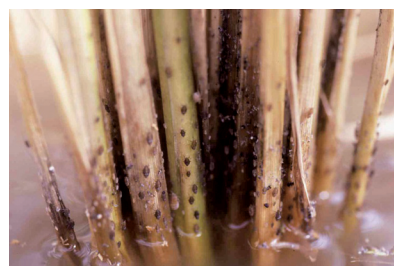
三つの研究室はそれぞれ特性を発揮しながら連携し、部としての総合力の向上を図っています。「キャベツ根こぶ病」、「ジャガイモそうか病」、「サトイモ疫病」、「施設ピーマン IPM」、「露地オクラ・マメ類 IPM」、普通作での「イネごま葉枯病」対策等は、なかなか上手く分担・協力できていると考えています。平成29年度からは果樹の環境分野の取り組みも始まり「カンキツ」、「マンゴー」、「アボカド」といった品目に対する病害虫防除、その基盤としての土壌肥料適正管理技術開発も進んでいく



イネごま葉枯病多発
水田の土壌調査



サトイモ疫病
甚発生圃場



水際に生息する
トビイロウンカ



ギフアブラバチ（対ジャガイモ
ヒガナガアブラムシ）

平成29年9月、果樹園に飛来
したカメムシ類

ことが期待されています。同年9月に病害虫防除所から「カンキツ」のカメムシ類注意報を発信したところ、望外のマスコミ反応をいただきました。今後、緑肥植物の再評価による新たな視点での農耕地生産環境管理技術開発を目論んでおり、その技術開発に対しても取材を受けられるようにありたいと思っています。

直近では、日本応用動物昆虫学会鹿児島大会が催され当県にお越しいただいた方々も多いことと思います。2年後には日本植物病理学会の鹿児島大会も予定されており、そのような機会に「ぜひ、鹿児島県農業開発総合センター生産環境部を訪ねてみたい」とお申出をいただけるよう今後も技術研鑽と本誌、学会誌等を通じた情報発信を重ねていきたいと考えています。これまで各種研究事業でご一緒させていただいた方々をはじめ皆様方からのご助言ご指導をお願い申し上げます。

（病害虫防除所長兼生産環境部長 井上栄明）